

苦渋の決断

留萌本線の廃止に合意

令和5年と令和8年の2段階



JR北海道が平成28年11月に「単独では維持困難」と公表していた10路線13区間のうちの一つであった留萌本線の廃止を決める合意書に、8月30日沿線4自治体の首長がサインをしました。今後は代替交通策などの協議をJR側と続けていきます。

7月21日に開催された会議でJR側から廃止の提案を受け、町内5個所延べ6回説明会を開催し、また町内3団体にもその内容を説明してきました。

留萌本線は1910年に深川―留萌間が開業し、その11年後に留萌―増毛間が開業。110年以上の歴史に幕を閉じることとなります。横山町長は「町民の足として、先人の作り上げてきた留萌本線を残したい」との思いから、最後まで存続を訴え、JR北海道と国や

北海道に対して6項目の要請を行い、しっかりとした対応をするとの回答を受け、合意書に署名しました。

署名した日から横山町長は、直接的に影響する恵比島地区を皮切りに、説明会を5個所で開催し、今回合意した内容や今後の代替交通の考え方を直接説明しました。

横山町長は「今まで留萌本線を応援してくださった皆様や、日本各地から様々な意見をくださった『JRに乗り続け隊』の皆様に深く感謝申し上げます。これから、石狩沼田―深川間が廃止される3年半後のまちづくりを町民の皆様とともに取り組んでいきたいと考えています。」と述べました。

合意の際、沼田町がＪＲ北海道及び国と北海道へ 要請を行った６項目

○ＪＲ北海道への要請事項

- ・増便等利便性の向上に向けしっかりと対応するよう要請した。
- ・旭川への直行便運行や旭川方面へのＪＲ接続を充実するよう要請した。

○国・北海道への要請事項

- ・恵比島～沼田間代替交通の確保を図る上で、道道の除雪体制が早朝便運行に支障のないよう要請した。
- ・道道沼田妹背牛線の防雪柵の設置を図り、冬期間の視界不良に伴う交通事故防止の対策を要請した。
- ・バスストップの開設などを要請した。
- ・バス運行が持続出来るような補助制度への改正と居住地によって教育格差が生じないよう、国に対して高等学校への通学費補助制度の創設を要請した。

ＪＲ北海道との合意内容

1. 石狩沼田・留萌間は令和５年３月末まで運行し廃止
2. 深川・石狩沼田間は令和８年３月末まで運行し廃止（部分運行は３年間）
3. 深川・石狩沼田間の運行費用と折返設備の費用はＪＲが全額負担
4. 代替交通支援は、鉄道廃止から最大１８年間分
5. ＪＲから各自治体へのまちづくり支援は７,０００万円

説明会でご説明した 代替交通の案

町営バス幌新線が現在運行している５便にプラスして真布経由の新ルートを早朝の１・２便と夜の８便を追加して、合計８便の幌新線を行き止ることを検討しています。

朝の深川方面行きは、石狩沼田発６時２７分発と７時２９分発の列車に間に合うように町営バス幌新線を行き止ることを検討しています。このことで滝川市や旭川市の高校に通うことができま

す。帰りの石狩沼田午後４時２５分着の便は、乗り合いタクシー等でカバーし、午後６時２７分着の便は新しく真布経由で運行する幌新線８便に接続することで検討しています。午後８時２８分着の便は、一般タクシーの助成を検討しています。



ことを検討しています。

今回の提案は、主に来年３月末で鉄道が廃止される恵比島と真布及び留萌方面への交通についての原案です。

これから全線廃止になった場合の代替交通について今後、町民の皆さまの意見を頂きながら検討してまいります。

ご意見・ご質問などございましたら、役場産業創出課ＪＲ留萌本線対策室３５１までお寄せください。